

<県研究主題>

生徒一人ひとりの言語活動を充実させ、「伝え合う力」の育成を図る
学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 板井 亜紀子（県西地区）

<研究主題>

「話すこと・聞くこと」の言語活動を柱とした年間計画の工夫・改善

1 提案内容

生徒の日常生活のトラブルの多くは、自己表現力が乏しく、コミュニケーション能力の低下が要因となっていることが多い。学校教育においてコミュニケーション能力（伝え合う力）」を育むことが重要である。校内研究「コミュニケーション能力の育成を目指した指導方法の工夫」を、国語科としては、話し合い活動、意見交換、教え合い、学び合いの中で「相手に分かりやすい話し方」「思いを正確に伝えるための表現の仕方・言葉の選び方」「話の聞き方」を学習させ、相手とのコミュニケーションを3年間で身に付けさせたい。

(1) 年間指導計画の工夫・改善のために

① 3年間で育てる段階的な力 〈話す・聞く能力〉

1年：正確に最後まで「話す・聞く」こと

2年：他の人の考え、表現方法から学ぼうという意識を持って「聞く」、意識的、効果的に自分の活動に生かして「話す」こと。

3年：相手意識、目的意識を持ち、場の状況や相手に応じて、言葉の使い分け、表現の仕方などを工夫しながら、積極的に豊かに「話す・聞く」こと。

※〈書く能力〉は、学年ごとに「記述」「交流」に、〈読む能力〉は「文章の解釈」「自分の考えの形成」に分け、目標と活動を示した。

②指導の実際（1年）

・漢字練習・音読活動を生かした取組・スクールボランティアの活用・教室に辞書を置く

(2) 「読み」を深めるために「話す・聞く」活動を取り入れた授業の実態：「少年の日の思い出」

①初発の感想を書く。 ②場面や表現や描写に注目し、「僕」の気持ちについて考える。

③「僕」のものの見方、考え方について自分の考えを持つ。 ④作品全体を振り返り、初発の感想と比較しながら、学習後の感想をワークシートに記入。

(3) 成果(○)と課題(●)

○グループ活動を多く取り入れたことで、他の人の考えに触れ、意見交流をすることに興味・関心を持って取り組むようになった。スピーチでは話し手は聞き手を意識し、分かりやすくスピーチする姿が見られた。聞き手も話し手に視線を向け、反応し、自分の考えと比較しながら感想を伝えていた。

●「（相手の）伝えたいことは何か」を正確に聞き取る力が十分とは言えない、相手に伝えるための語彙が乏しい生徒も存在するのが実状である。自分の思いを表現する言葉を学ぶ場の設定も今以上にしていかなければならない。

☞「豊かに話す力」「積極的に聞く力」を育てるためには、伝え合うための場と方法を工夫す

ること、個の違いを認め、互いの立場や考え方を尊重しながら、言葉による伝え合いの繰り返しを行うことが重要である。今後も様々な活動場면을工夫していきたい。

2 協議内容

(1) グループごとで達成度に差があった際の指導法について

- ・クラス全体共有時には教員が（今出ている意見に対し）「他の意見は出ていないか。」
「追加・削除はないか。」を聞く。

(2) 自己の内面開示の難しさについて

- ・「少年の日の思い出」における「僕」の考え方についての交流については、自分とどこが同じでどこが違うのかを明らかにさせた。
- ・「話す・聞く」の活動であるスピーチや討論も、テーマによっては内面をさらけ出さなければならぬものもあり、入学当初などは難しい。

(3) 校内研「コミュニケーション能力育成」の中での国語科の役割の重要性

- ・全教科において、グループ活動を行っており、成果が上がっている。授業参観を行うなどし、コミュニケーション力不足の生徒を抽出し、支援をしていくことも重要である。

3 助言

①意図的：「話す・聞く」の言語活動によって、読みを深めるためにグループで交流することの大切さに気づかせるという意図や熱意が大切である。

②計画的：小・中学校9年間のゴールである3年生で身につけさせたい力を見据え、2年、1年ではどこまでを目指すのか、学校・学年の教科担当教員の共通理解が必要である。また、小学校でどのような学びを行っているのかを知る必要もある。

③継続的：コミュニケーション力の育成において、国語科として何ができるか、子どもにいきる言語活動を今後も考えていくべきである。子どもが知らないことは年間を通じて継続的に紹介、教えていく必要もある。

提案2

提案者 浅間 雅彦（横須賀地区）

< 研究主題 >

文章の解釈を中心に据えた授業展開の研究

1 提案内容

横須賀の研究会では、各観点別（読む、書く、話す・聞く、言語・文学）に研究会を持っている。今回は、読む領域での横須賀の研究内容と、教材『ダイコンは大きな根？』（1年）での研究の実践を報告する。（以下発表資料参照）

(1) 横須賀の研究内容

横須賀地区研究会の「読む」研究部門では、指導要領のポイントの一つである『言語能力の育成』に注目して研究を進めている。その中でも公立高等学校入学者選抜における学力検査問題の改善内容から見えた、「要約力」を研究の柱としている。

①要約力

「要約力」を研究テーマにしたときに、共同研究において「一定の型」を定めることによって研究に取り組みやすくした。説明的文章を要約し書くことで、読み取る力の育成につながるかと考えている。この全文要約の型は、三学年共通の型として、説明的文章に応用できる。

②教材研究のセオリー

若い教員が増えてきたことにより、教材研究についての悩みや疑問を解消するために、「教材研究のセオリー」（説明的文章を教材化する上での8の視点）を作成している。まだ作成途中であり、各領域共通の“教材を使ってどんな力をつけるか”を大切に、「教材化の視点＝授業づくりの指針」を形にしていきたい。

③受信・考察・発信

要約力について、焦点をあてているが、要約が授業の目標地点であるわけではない。授業には、受信・考察・発信の流れが大切であり、要約は考察にあたるものである。要約することで、授業の目標達成につながる一助になると考えている。

(1) 授業実践『ダイコンは大きな根？』

①指導の手立て

ア 要旨を的確につかむために、理科学的用語の理解や接続詞に注目して論理の学習をした
イ 「教材研究のセオリー」（説明的文章を教材化する上での8の視点）を使い、学習内容を定めた。

ウ 受信・考察・発信に沿うように授業展開を考え、目標地点である発信をプレゼンテーション・作文として考えた。

②研究成果

ア 「書く」活動を取り入れ発信させたことで「読む」力を効果的に身に付けられた。
イ 書くことに対する抵抗感がとれた。

2 協議内容

(1) 評価について

評価は一つの単元において一つの領域が良いとされているが、実際には一つの単元で複数の領域がからんでいる。よって、評価を複数の領域でしていることがある。注意しなければいけないのは、授業を作る中で、生徒にどのような力を付けさせるかはっきりすることであり、そこが明確になっていないと指導と評価に齟齬が生じる。

(2) 感想・意見から

- ・対比の短文から説明的文章の構造まで持っていったことが素晴らしい。
- ・「説明的文章を教材化する上での8の視点」はとても参考になった。項目がいろいろあるが、同じ内容と取れるものもあるのではないかと。再度整理する必要がある。

3 助言

(1) 横須賀の研究会について

教材化の視点はとても興味深い。若い教員が増えていく中で、経験年数の多い教員から、技術や知識をきちんと伝えていくことは難しい。このような指針となるようなものがあると、教材研究に取り組みやすいので、是非、各地区でブラッシュアップし共有していただきたい。

(2) 授業実践について

1年生のうちに受信・考察・発信の流れを身につけ、基礎を固めることができれば、今後の授業がやりやすくなるのが、よくわかった。

(3) 小学校と中学校の指導事項の系統性

学習指導要領では、小学校で学んだことを発展させるといった内容の記述が、たくさ

んある。この流れは、小中一貫教育にもつながっている。小学校で培われた力を中学校でどういかに活かすかを考えていかなければならない。

(4) 評価について

生徒たちにも見える評価の仕方、妥当性と信頼性のある評価について、今後もしっかりと意識して取り組まなければならない。

協議の柱に即したグループ協議

協議のテーマ「小中9年間を見通した国語の教育課程改善に向けて～指導事項の系統性と学習評価を切り口に～」に沿ってグループ協議を行い、キーワードにまとめて発表し、全体に共有した。

Aグループ：「学びの連続性を意識しよう」

Bグループ：「小中連携を図る場作り，基礎的・基本的事項の確認」

Cグループ：「見合う」

Dグループ：「義務教育9年間の重要性」

Eグループ：「お互いを知る，『柱』を持つ」

Fグループ：「発達段階を踏まえ，ねらいを明確にした授業をしよう」

Gグループ：「多面的な交流」

Hグループ：「国語科から小中合同部会を実施！」

全体のまとめ

(教科調査官の行政説明から)

○学習指導要領の次期改訂について

○育成すべき資質・能力について

○現行学習指導要領全面実施に係る成果と課題について

・言語活動　・小中の接続や連携　・学習評価　・全国学力・学習状況調査の活用

(まとめとして)

国語科単元構想「これだけは！」

○「付きたい力」を明確化すること

☞学力の具体としての指導事項、指導内容を理解することから

○効果的な指導のための言語活動（学習活動）を開発・選定すること

☞指導事項、指導内容とのマッチングに留意

☞学習課程を課題解決的にデザインする

○評価計画の工夫

①評価規準の設定 ☞評価規準の具現化

②評価時期の設定

③評価方法の設定

④指導の手立て